

教育長賞

学びから行動へ、 行動から美しい川へ

静岡市立両河内小中学校

九年 山崎 さん

いつも私たちが見ている水は、透き通っていてとても綺麗な水です。飲んでも美味しく、両河内は水に恵まれている地域だとよく感じます。しかし、ある体験を通じて、私のその考えはかなり変わりました。

それは、小学生のときの総合の授業で、興津川の水質検査をしたことです。検査をする前は正直、「きっと良い結果になるだろう」と思っていました。私たちが普段使っている水、飲んでいる水はとても綺麗で、たくさんの生きものも住んでいるからです。

しかし、その結果は驚くもので、良い結果ではなかったのです。幼い頃から身近だった興津川の水、両河内の水に誇りをもっていたこともあり、信じられませんでした。

それまでの私は、「美しい川と生きものを守る」「水を未来まで繋ぐ」というと、かなり大きなこと、難しいことだと身構えてしまっていたところがありました。でも、私たち一人一人にも、少なからずできることがあるはずです。ごみをポイ捨てしないことを気をつければ、川が汚れることを少しでも防ぐことができます。他にも、魚をとりすぎないことや生活用水を工夫して使うことなどができると思います。そのように考えることができるようになったのは水質検査をしたからです。

水質検査以外にも、小学生のときには浄水場の見学に行

き、水についてのお話も伺いました。中学生になってからは、鮎について興津川漁協の方に質問をさせていただいたことがあります。総合の授業以外にも、国語の授業で「水を守ること」に関する説明文を読んだり、道徳の授業で「生きものと環境」について学習したりして、水についてより深く、広く考えることができたと思います。実際に川や水に関わっている方のお話には、とても多くの学びがありました。自分が知らなかった水のことや、水の生きものに関する知識を得ることができました。水や川について考えるには、まず「知識を蓄える」ということ、そして、「現状を知る」ということが必要だと思うので、どれもとても有意義な時間となりました。

特に、漁協の方からお話をさせていただいたり、質問に答えていただいたりする中で、私たちは「興津川と鮎」について多くのことを知り、考えました。漁協の方とリモートでお話をさせていただいたり、鮎釣り体験をさせていただいたりしたのは、両河内に住んでいるからこそだと思えます。私たちは、興津川という綺麗な川が近くにあることで、たくさんの貴重な経験をさせていただいています。まずはその環境と、環境を整えてくださる方に感謝をしたいと思っています。

そのように、水について、川について、さまざまな経験

を通して学ばせていただいている私たちには、これからの興津川の環境を守り、未来へ繋いでいく責任があると考えます。そして、興津川に住む鮎などの生きものが、これからのびのびと命を育んでいけるような川にしなければいけない。そう思っています。そのためには、「この川は私たちだけのものではない」と考えることが重要だと思います。美しい川にしか住めない生きものがあるということを知ってからにはさらに、その考えが強まりました。

私が水と両河内について、興津川について思うことは、「私たちは興津川を大切に思うからこそ、守り続けていかなくてはいけない」ということです。貴重なこの水を誇りに思うことはもちろんとても大切なことだと思います。でも、そこで終わりではなく、「さらに綺麗で誇れる川にするにはどうするべきか」「未来に綺麗な川を残すために何ができるのか」を考え、実行することが何よりも大切なのではないかと私は思います。

ごみを捨てない。なるべく節水をする。そういった小さな心がけや行動が重なって、これからも美しい川が続くことを願います。